18-8　授業解題

島名：グローバル・ヒストリー

教科（領域）：生活
単元（教材）:「つくってたべよう！アジアごはん！~ブータン編」
対象：小学部 1 組

授業者：平元妙佳　先生

1. グローバル・スタディーズの観点からみた本授業の「強み」

〇本授業は特別支援学校の小学部低学年の「生活」単元で行われた全 5 回（一回 2 時間、計 10 時間）の単元の最終回にあたる。小学部の低学年段階では「衣・食・住」に関わる活動を主としており、この単元では「食」をメインテーマしていた。導入の 2 時間で日本の料理を作って食べた後、続く回では中国、韓国、タイ、ブータンの食と文化が題材とされた。

〇小学部の低学年では、他の国の文化や歴史を意識する機会自体が少ない。本授業の強みは、そうした発達段階の児童生徒を対象として、身近な「食」という側面から他文化・歴史への関心を呼び起こすことに成功している点にある。さらに授業者がアジア諸国、特にブータンに対する造詣が深く、現地をたびたび訪問したこともあるため、画像や自前の衣装等も活用して極めて効果的に児童と他文化との仲介者となり、食事のマナーや文化の違いを楽しみながら学ぶことを可能にしていた。

〇食を軸に据え、補助的に衣服という題材も取り入れた本授業は、「さわれる」歴史というアプローチからグローバル化の歴史的な理解を図るグローバル・ヒストリーの島にとってモデルケースといえる。また食事やマナーを題材とすることで、「国」という抽象物を理解することが難しい発達段階から歴史に親しみ楽しむ可能性を開いていたといえる。

2. グローバル・スタディーズのカリキュラム開発にむけて

〇本授業は題材と方法の両面で発展性の高い授業といえる。まずブータンという題材自体、日本ではもともと有名ではなかったかもしれないが、特に 20 世紀後半から農業支援などを通じて日本と深いつながりを持つ国である。小学校高学年以上の発達段階では、そうしたグローバル化の現代史的な側面にクローズアップした授業の展開も考えられる。また本授業ではあえて用いられなかったが、ブータン料理で重要な食材にあたる唐辛子の歴史的な伝播などもグローバル・ヒストリーの題材としては非常に興味深い。

〇本授業では授業者自身のブータンの文化と歴史に対する関心と造詣の深さが授業の鍵となっていた。裏を返せば、何らかの国や地域に深い関心を持つ教員であれば、本授業の方法は発達段階に合わせつつ大幅に応用が可能であるといえる。

〇その際、調理実習に限らず、もし給食の献立で「世界各国の食事」といった企画がある場合は社会等の授業と給食の時間の連携も考えられる。